



薬価改定の頻度について

- 日本政府は後発品の安定的な供給と品質の向上を図る方針を打ち出しており、この政策目標を達成するため、近年数々の政策を打ち出している。
- しかし、薬価の毎年改定は、これらの後発品促進策の効果を打ち消す危険性をはらんでいる。
 - 後発品メーカーにとって、度重なる薬価改定を乗り越え、長期にわたって供給し続けることは困難であり、2年に1回の薬価改定は後発品市場の安定性を害する主たる要因の一つであったといえる。
 - 現行制度の下では、後発品の主たる競争力の源泉は相対的に低い価格であるため、薬価の毎年改定が実施されると後発品市場は一層不安定なものとなり、安定供給や品質の向上を図ることが困難となる。